

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-141	高等学校	数学	数学Ⅱ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数Ⅱ712	最新 数学Ⅱ		

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、以下の4つを基本方針に据え、着実なる学力向上を目指した。

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| 1 | 見やすく、視覚的に理解しやすい紙面を追求。 |
| 2 | 知識、技能をスムーズに定着。 |
| 3 | 思考力、判断力、表現力を育成する問題もある程度充実。 |
| 4 | 生徒が自ら学びを深めるための工夫がある。 |

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
章扉	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中に数学が活用できる事例を紹介し、生徒の主体的な学習を促し、数学のよさを認識できるようにした(第1号, 第2号)。 ・既習の事柄について、その考え方を発展させたり、別の条件で考えたりする事例を紹介し、真理を求める態度を養う機会を設けた(第1号)。 ・発明家エジソンの話題を取り上げることによって、他国の先人の業績を学び、それを尊重する機会を設けた(第5号)。 	58～59 ページ, 142～143 ページ 6～7 ページ, 36～37 ページ, 174～175 ページ 106～107 ページ
第1章 式と証明	<ul style="list-style-type: none"> ・相乗平均の意味を、具体例を交え取り上げ、数学と日常生活との関連を重視する態度を養う機会を設けた(第2号)。 	34 ページ
第2章 複素数と方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・判別式を表す文字 D が、英単語の頭文字からとられていることに触れ、他国での数学に関心をもつような機会を設けた(第5号)。 	44 ページ
第3章 図形と方程式	<ul style="list-style-type: none"> ・解析幾何学における方法やその有用性を理解できるように、基本的な具体例を通して、丁寧に説明した(第1号)。 	58～105 ページ
第4章 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> ・数学者プトレマイオスの話題を取り上げることによって、他国の先人の知恵を学び、それを尊重する機会を設けた(第5号)。 	138 ページ
第5章 指数関数と対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ・星の明るさと対数の関連を取り上げ、幅広い知識を身につける機会を設けた(第1号)。 ・地震とマグニチュードの関係を取り上げ、我が 	161 ページ 172 ページ

	<p>国で頻発する自然災害に向ける態度が養われるよう配慮した（第4，5号）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バクテリアの増殖にからめ，環境保全のための技術開発などを話題にできる。このような場面を設けることにより，環境の保全に目を向ける態度が養われるよう配慮した（第4号）。 	173 ページ
第6章 微分法と積分法	<ul style="list-style-type: none"> ・微分法の知識を具体的な場面で活用する能力が身につくよう配慮した（第1号）。 	193 ページ
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・節末に，その節で学んだ内容を振り返る場面を設け，これまでとは違った角度からの問題を取り上げることで，確かな知識が身につくよう配慮した（第1号，第2号）。 	24 ページ， 50 ページ， 90 ページ， 139 ページ， 170 ページ， 215 ページ
課題学習	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅱで学んだ内容を，生活と関連付けたり発展させたりするなどして，生徒の関心や意欲を高める課題を設け，生徒の主体的な学習を促し，数学のよさを認識できるようにした（第1号，第2号，第4号，第5号）。 	218～227 ページ
練習の答，節末問題・章末問題の答	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲のある生徒には自学自習もできるよう，練習・節末問題・章末問題の最終的な答を掲載した（第2号）。 	228～238 ページ
さくいん	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら振り返って学習もできるように，さくいんを入れた（第2号）。 	239～240 ページ
三角関数表，常用対数表	<ul style="list-style-type: none"> ・数学を具体的事象に活用する場面で，表を用いて近似値が調べられるようにした（第2号）。 ・いろいろな値に対する三角関数や常用対数の近似値を見ることで，値の変化の特徴に気付いたり，数的感覚が養えたりできるようにした（第1号）。 	前見返し，後見返し

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

基本方針にのっとり，以下の点に特に意を用いた。

1 見やすく，視覚的に理解しやすい紙面を追求。

各項目は，なるべく左ページから始まるようにし，内容の展開が一目でわかるように配慮した。

図を多用して，視覚的に理解を深められるように配慮した。

●円の方程式（82ページ）

一般形の方程式を基本形に変形する方法に関する図解を掲載した。

$$(x^2+4x)+(y^2-6y)=12$$

(半分) (半分)

$$(x+2)^2-2^2+(y-3)^2-3^2=12$$

(2乗) (2乗)

●微分，積分の公式

(181, 199 ページ)

x^n の導関数，不定積分の公式に関する図解を副文に記すことで，公式を覚えやすくした。

1 だけ減らす

$$(x^{\ominus})' = x^{\ominus-1}$$

前に出す

1 だけ増やす

$$\int x^{\ominus} dx = \frac{x^{\ominus+1}}{\ominus+1} + C$$

1 だけ増やして分母に

2 知識，技能をスムーズに定着。

既習事項との関連を配慮した。

● 整式の展開，因数分解

(8, 10 ページ)

3 次式の展開，因数分解の公式を導入する前に，数学 I で学んだ 2 次式の展開，因数分解の公式について復習した。

● 組合せ (13 ページ)

二項定理の冒頭で，数学 A で学ぶ組合せ記号 ${}_n C_r$ の計算方法を丁寧に扱った。

● 重心 (69 ページ)

座標平面上における三角形の重心の座標公式を導く中で，数学 A で学ぶ重心の定義を記述した。

二項定理

異なる n 個のものから r 個を取り出して 1 組としたものを， n 個から r 個取る 組合せ といい，その総数を ${}_n C_r$ で表す。
 ${}_n C_r$ について，次の公式が成り立つ。

$$1 \quad {}_n C_r = \frac{n(n-1)(n-2)\cdots(n-r+1)}{r(r-1)\cdots 2 \cdot 1}$$

$$2 \quad {}_n C_r = {}_n C_{n-r} \quad \leftarrow {}_n C_0 = 1 \text{ と定める}$$

例 2 (1) ${}_6 C_3 = \frac{6 \cdot 5 \cdot 4}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 20$ (2) ${}_7 C_5 = {}_7 C_2 = \frac{7 \cdot 6}{2 \cdot 1} = 21$
公式 2

練習 補 8 次の値を求めよ。
 (1) ${}_5 C_2$ (2) ${}_8 C_4$ (3) ${}_8 C_6$ (4) ${}_4 C_1$ (5) ${}_5 C_0$

学習内容の繋がりが把握しやすい。

● 既習事項を示す線

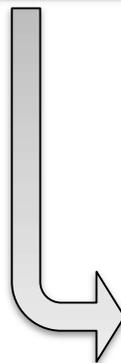
中学校や数学 I，それまでの項目で学習済みの内容には，そのことを示す線を引いた。

● 構成要素「次への一步」

新構成要素「次への一步」で，その項目で学習した内容を確認する問題の問い方を工夫し，次の項目を意識した問題を取り上げた。11 ページの「次への一步」では，12 ページで学習する二項定理の利点を感じられる設問を設けた。

次への一步

9 ページの展開の公式 6 と分配法則を用いて， $(a+b)^4$ を展開しなさい。



2 二項定理

$(a+b)^2$ と $(a+b)^3$ の展開の公式については既に学びました。ここでは， $(a+b)^n$ の展開式について学習します。

● パスカルの三角形

$(a+b)^2$ ， $(a+b)^3$ の展開式は，展開の公式から，次のようになる。

$$(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$$

$$(a+b)^3 = a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3$$

$(a+b)^4$ の展開式は，右の計算から

$$(a+b)^4 = (a+b)^3(a+b)$$

$$= (a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3)(a+b)$$

$$= a^4 + 4a^3b + 6a^2b^2 + 4ab^3 + b^4$$

$$\begin{array}{r} a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3 \\ \times) a + b \\ \hline a^4 + 3a^3b + 3a^2b^2 + ab^3 \\ \quad a^3b + 3a^2b^2 + 3ab^3 + b^4 \\ \hline a^4 + 4a^3b + 6a^2b^2 + 4ab^3 + b^4 \end{array}$$

上の計算で係数だけを取り出すと

$$\begin{array}{r} 1 & 3 & 3 & 1 \\ \times) & 1 & & \\ \hline 1 & 3 & 3 & 1 \\ & 1 & 3 & 3 & 1 \\ \hline 1 & 4 & 6 & 4 & 1 \end{array}$$

1 つの例・例題には，1 つの学習内容のみを扱っているのので，無理なく段階的に学習できる。

● 連立不等式と領域 (100~102 ページ)

連立不等式の表す領域では，図示問題として

- ① 境界が 2 直線の場合
- ② 境界が直線と円の場合
- ③ $AB > 0$ の形の不等式

の 3 つの例題を取り上げ，段階的に学習できるよう配慮した。

● 対数関数を含む方程式と不等式 (165~166 ページ)

対数関数を含む方程式や不等式の解き方を、右の例題 5, 6, 7 の 3 段階の例題に分けて解説し、丁寧に扱った。

例題 5 次の方程式, 不等式を解け。

(1) $\log_2 x = 3$ (2) $\log_2 x \leq 3$

例題 6 次の方程式, 不等式を解け。

(1) $\log_3(x+1) = 2$ (2) $\log_{\frac{1}{3}}(x-1) \geq 2$

例題 7 方程式 $\log_2 x + \log_2(x-2) = 3$ を解け。

学習内容を振り返ることで知識, 技能を確実に定着。

- 内容の区切りや節末に「振り返り」を設け、それまでに学習した知識, 技能を振り返ることができるようにした。
- また、それに関連した問を与え、知識, 技能の定着と深い理解に繋げることができる。

振り返り 複素数

ここでは、複素数について、これまでに学んできたことを振り返ってみましょう。次の空らんには、これまでに学んできた数や語句が入ります。教科書を振り返り、空らんを埋めてみましょう。

■ 複素数

a, b を実数とする。

複素数 $a+bi$ では、 a をその , b をその という。

$b=0$ である複素数 $a+0i$ は を表す。

$b \neq 0$ のとき、複素数 $a+bi$ を という。特に $a=0$ であるとき bi と表し、これを という。

問 (1) 下の語群から正しい語句を選び、次の図の空らんを埋めよ。

複素数

基礎～標準レベルの充実した問題量。

- 分数式の計算や、指数・対数の計算などの計算問題については、反復量を豊富に扱い、定着を図った。
- 内容の区切りや節末に「節末問題」を設け、例・例題の復習問題を扱った。
- また、問題文の近くに関連した例・例題の参照番号を記しているのので、フィードバック学習をすることができる。

3 思考力, 判断力, 表現力を育成する問題もある程度充実。

考えを深める問いを適切な場面で設定している。

● 構成要素「深める」

新構成要素「深める」として、更に類問を考えてみる、発展させた問題を考えるなど、本質的な理解に繋がる問いを適切な場面に設定した。脚注として掲載することで、本文と識別しやすいレイアウトになっており、生徒の理解度等によって、適切なタイミングで取り上げることができる。

深める 等式 $\sin(\alpha+\beta) = \sin\alpha + \sin\beta$ は一般に成り立ちません。 α と β に具体的な角を代入し、 $\sin(\alpha+\beta) = \sin\alpha + \sin\beta$ が一般に成り立たないことを確認してみよう。

一般に、正弦, 余弦について、次の **加法定理** が成り立つ。

正弦, 余弦の加法定理

- $\sin(\alpha+\beta) = \sin\alpha\cos\beta + \cos\alpha\sin\beta$
- $\sin(\alpha-\beta) = \sin\alpha\cos\beta - \cos\alpha\sin\beta$
- $\cos(\alpha+\beta) = \cos\alpha\cos\beta - \sin\alpha\sin\beta$
- $\cos(\alpha-\beta) = \cos\alpha\cos\beta + \sin\alpha\sin\beta$

例 10 (1) $\sin 105^\circ = \sin(60^\circ + 45^\circ)$ $\circ 105^\circ = 60^\circ + 45^\circ$

$= \sin 60^\circ \cos 45^\circ + \cos 60^\circ \sin 45^\circ$ 公式1を使う

$= \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}$ $\simeq \frac{\sqrt{2}}{2}$

(2) $\cos 15^\circ = \cos(45^\circ - 30^\circ)$ $\circ 15^\circ = 45^\circ - 30^\circ$

$= \cos 45^\circ \cos 30^\circ + \sin 45^\circ \sin 30^\circ$ 公式4を使う

$= \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{\sqrt{2}}{2} \cdot \frac{1}{2} = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}$

問 18 次の値を求めよ。

(1) $\sin 75^\circ$ (2) $\cos 75^\circ$ (3) $\sin 15^\circ$ (4) $\cos 105^\circ$

深める 等式 $\sin(\alpha+\beta) = \sin\alpha + \sin\beta$ は一般に成り立ちません。 α と β に具体的な角を代入し、 $\sin(\alpha+\beta) = \sin\alpha + \sin\beta$ が一般に成り立たないことを確認してみよう。

本文外の「研究」を学ぶことで、更にレベルアップが可能。

「研究」…… やや程度の高い内容

生徒の興味・関心に応じて、自主的に取り組めるような構成とし、その能力を伸ばせるように記述した。

- $(a+b+c)^n$ の展開 (15 ページ)
- 線分の midpoint の軌跡 (95 ページ)
- 3 次関数のグラフと面積 (214 ページ)

4 生徒が自ら学びを深めるための工夫がある。

生徒が主体的に学習に取り組むための工夫がある。

- 構成要素「深める」 → 3

- ICT の活用 Link マーク

教科書に関連した補充問題、理解を助けるアニメーション、生徒自らが考察するためのツールなどのデジタルコンテンツを用意しており、インターネットに接続することで活用できる。紙面では表現が難しい動きをともなうコンテンツもあり、生徒がこれらに触れることで理解を深めることができる。



5 関数の増減

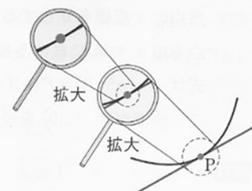
関数の値の増減とグラフの接線の傾きとの関係について学習します。

関数の増減と導関数

$y=f(x)$ のグラフ上の点 P に非常に近いところでは、グラフは点 P における接線と、ほぼ一致しているとみなすことができる。

このことを利用して、関数 $f(x)$ の値の変化の様子を調べてみよう。

10 たとえば、関数 $f(x)=x^2$ の導関数は $f'(x)=2x$ であるから、次のこ



数学の面白さ、数学のよさ、数学の奥深さが実感できる。

- 章扉

その章の内容に関連した生活の事象や社会の事象などを紹介し、その章を学ぶ動機づけになるようにしている。

- コラム

本文の内容に関連する興味深い話題をコラムとして取り上げている。



5 ユニバーサルデザインに関する取り組み

- 色づかい

色覚の個人差を問わず多くの人に見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した。

- 文字

本文等に、多くの人に見やすく読みまちがえにくいデザインの文字（ユニバーサルデザインフォント）を使用した。

通常のフォント

るような実数

ユニバーサルデザインフォント

るような実数

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-141	高等学校	数学	数学Ⅱ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数Ⅱ712	最新 数学Ⅱ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 全体的な留意点

- 1 基礎的・基本的な知識及び技能が確実に理解できるように、平易な具体例による平明な説明を第一とした。
- 2 学習内容の体系に留意しながら、それらを細分化して展開することで、学習事項が確実に身につくように配慮した。
- 3 思考力、判断力、表現力を育成できるように、本教科書を使用する生徒の特性を踏まえた問題を適切に扱うことを心掛けた。
- 4 日常の事象や社会の事象を扱い、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度等を養えるように配慮した。
- 5 内容の理解の定着のため、図版やレイアウトなど視覚面での工夫を心掛けた。

2 教科書の特色

- 1 既習の学習内容に関連した項目では、導入にその復習を取り入れるなどして、接続がスムーズになるように配慮した。さらに、中学校数学や数学Ⅰ、それまでの項目で既習の内容を本文で扱う際は、既習の内容であることが分かるよう印を設けた。
- 2 豊富な具体例を段階的に配置することで、出来る限り広い層の生徒が理解できるように留意した。
- 3 重要事項は、適切な箇所に配置し、枠で囲んだり強調したりすることで、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に定着するように配慮した。
- 4 生徒自らが問題に取り組みそれを解決することは、学習内容の確実な定着を図るだけでなく、新たな学習事項に対して更なる関心や意欲を喚起するものである。そのため、本書では、この点に留意し、基本的な問題から標準的な問題を幅広く取り上げた。
- 5 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度等を養えるよう、章扉に日常の事象や社会の事象を取り上げた。
- 6 多色刷のグラフや図を効果的に使い、視覚的にも理解を容易にするように配慮した。さらに、色覚の個人差を問わず多くの人が見やすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮した。また、本文の和文書体として、多くの人が見やすく読みまちがえにくいデザインの文字（ユニバーサルデザインフォント）を用いた。

3 教科書の構成要素

[章扉]

その章の内容に関連した日常の事象や社会の事象などの課題を紹介した。

[例]

本文の理解を助けるための具体的な例である。

[例題]

その項目の内容の基礎となる問題や代表的な問題である。必要に応じて「考え方」を記し、解答の方針などを示した。「解答」は、答案としての一例である。

[練習]

例、例題の内容を反復学習するための問題である。巻末にその答えをまとめてあり、生徒が自学自習しやすいように配慮した。

[次への一步]

その項目で学習した内容のうち、次の項目に必要な内容を確認するための問題である。

[深める]

見方を変えて考えてみるなど、内容の理解を深めるための問題である。
ページ下の脚注で扱っているので、必要に応じて取り組めるようにした。

[振り返り]

内容の区切りや節の終わりにある。それまでの基本事項をまとめた。
また、それらの理解を深めるための問題を「問」で取り上げている。

[節末問題]

内容の区切りや節の終わりにある。節末問題Aはその章の復習で、学習事項を確認するためのものである。練習問題Bはやや程度の高い問題を含んでいる。問題文に関連するページや例・例題番号を示し、フィードバック学習をできるようにした。

[章末問題]

各章の終わりにある。その章の内容全体の復習で、応用的な問題を中心に上げた。

[研究]

本文の内容に関連するやや程度の高い内容を扱った。場合によっては省略してもよい。

[発展]

高等学校学習指導要領の数学Ⅱの範囲外の内容である。興味や関心に応じて選択して学習する発展的内容である。

[コラム]

その章に関連した興味深い話題を取り上げた。

[課題学習]

章扉、本文の内容に関連して、学習者が主体的に取り組む課題を設けた。

インターネットへのリンクマーク

この教科書に関連した参考資料、理解を助けるアニメーション、活動を効果的に行うためのツールなどが利用できる目印である。

インターネットに接続することで活用できる。



4 各章において配慮した点

第1章 式と証明 式と計算／等式・不等式の証明

既習事項を適宜復習しつつ、多項式の乗法，因数分解，二項定理について解説し，更に多項式の割り算，分数式の計算を扱った。等式・不等式の証明では，証明の流れを理解しやすくするために，いろいろな工夫を試みた。

第2章 複素数と方程式 複素数と2次方程式の解／高次方程式

数学 I で学んだ2次方程式の解を複素数の範囲まで拡張することにより，統一的に扱えるようにした。その際，判別式 D の果たす役割の重要性を理解できるよう配慮した。高次方程式では，その解法について，簡単な例で丁寧に説明した。

第3章 図形と方程式 点と直線／円／軌跡と領域

直線と円を，座標を使って方程式で表すことで，直線や円の図形問題を計算的手法によって扱うことができるようになる。このことが理解されるように配慮した。

軌跡，領域では，具体例による導入と易しい教材による説明を心掛けた。また，デジタルコンテンツを用意し，軌跡を予想したり確認したりする活動ができるよう配慮した。

第4章 三角関数 三角関数／加法定理

回転の角としての一般角と，円弧の長さをもとに角を計量するラジアンを解説したあとで，数学 I で学んだ三角比をもとにして，一般の三角関数を丁寧に解説した。三角関数のグラフは弧度法を用いて示し，グラフの特徴や周期性についても触れた。加法定理については簡単な応用例までの扱いとした。

第5章 指数関数と対数関数

累乗の指数を，自然数から整数，有理数に拡張し，無理数，実数への拡張については，簡単な記述にとどめた。指数関数，対数関数のグラフは，いくつかの点をプロットすることによって，具体的に扱った。また，常用対数の応用はできる限りわかりやすく説明した。

第6章 微分法と積分法 微分法／積分法

微分法については，具体例による丁寧な説明を行い，微分係数の意味を曲線の接線によって理解させ，導関数の利用が関数の変化をとらえるのに極めて有効であることを，適切な教材により体得させられるように配慮した。

積分法においても，微分法と同様，具体例による丁寧な説明を行い，積分の意味の理解を容易にすると同時に，その応用についても，面積などの量が，積分法を利用することによって，いかに統一的，能率的に求められるかを，適切な教材により体得させられるように配慮した。

課題学習

様々な運用を考慮し，巻末にまとめて取り上げた。

売上額の最大値を線形計画法で求めたり，グランドピアノの弦の長さや音階について指数関数と対数関数を用いて考察したりするなど，身近な題材を中心に取り上げ，生徒が興味を持って取り組めるようにした。

さらには，相加平均・相乗平均・調和平均の大小関係や， $y=\sin 2\pi / m + \sin 2\pi / n$ のグラフの周期を考察するなど，各章で学習した内容を発展させる課題も取り上げた。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	(1)いろいろな式 ア(ア)(イ), イ(ア) イ(イ)	6～35ページ	16
第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の 解 第2節 高次方程式	(1)いろいろな式 ア(ウ), (エ), イ(ウ) ア(オ), イ(ウ)	36～57ページ	11
第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	(2)図形と方程式 ア(ア)(イ), イ(ア) ア(イ), イ(ア) ア(ウ), (エ), イ(イ)	58～105ページ	28
第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	(4)三角関数 ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(イ)(ウ) ア(エ), イ(ア)(ウ)	106～141ページ	19
第5章 指数関数と対数関数	(3)指数関数・対数関数 ア(ア)(イ)(ウ)(エ), イ(ア)(イ)(ウ)	142～173ページ	17
第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 第2節 積分法	(5)微分・積分の考え ア(ア)(イ), イ(ア)(イ), 内容の取扱い (1) ア(ウ), イ(ウ), 内容の取扱い(1)	174～217ページ	24
課題学習	[課題学習], 内容の取扱い(2)	218～227ページ	5
		計	120

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-141	高等学校	数学	数学Ⅱ	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104 数研	数Ⅱ712	最新 数学Ⅱ		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容 や内容の取扱いに示す事項	ページ数
226, 227	速さと距離の関係について 考えよう	1	(5) 微分・積分の考え ア(ウ), イ(ウ)	2
合 計				2

(「類型」欄の分類について)

- 1 ……学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2 ……学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容